

かいづか文化財だより



TEMPUS

テンプス

2008年(平成20年) **34**号



も く じ

貝塚市歴史展示館 常設展示リニューアル

展示室A「産業のまち バレーボールのまち 貝塚」

展示室B「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」

大日本紡績株式会社 貝塚工場の建築的特徴

古文書講座

古絵図をひも解く

貝塚御坊願泉寺の平成大修理



貝塚市歴史展示館 常設展示リニューアル



平成20年7月2日(水)、貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）の常設展示がリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルに際して、展示室Aでは、これまで行なってきた貝塚市の歴史を紹介した展示ではなく、貝塚市の近代産業とバレーボールに関するテーマを中心にした展示を行なっています。

また、展示室Bでは、これまで通り「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」と題した展示を行なっていますが、展示品を大幅に増やしています。

ぜひこの機会に新しくなった貝塚市歴史展示館へお立ち寄りください。

主な展示内容の紹介

展示室A「産業のまち バレーボールのまち 貝塚」

①大日本紡績株式会社設立前史

②大日本紡績株式会社 貝塚工場の建築的特徴

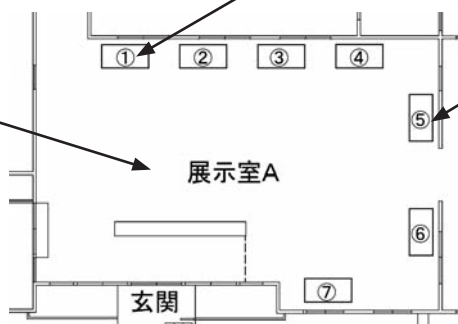
貝塚市域における江戸時代の綿織物業から近代の工場化への歴史、大日本紡績貝塚工場の誕生とその建築的特徴をさまざまな資料やパネルで紹介しています。

③東京オリンピック後のニチボー貝塚

④ニチボー貝塚と全日本女子代表チーム

⑤全日本女子代表バレーボールチームの現在

1964（昭和39）年の東京オリンピック後のニチボー貝塚チーム、過去のオリンピックやワールドカップにおける全日本女子代表チーム、そして北京オリンピックでのメダル獲得を目指す現在の全日本女子代表チームに関するさまざまな資料を紹介しています。



〔企画展示コーナー〕

⑥貝塚御坊願泉寺と貝塚寺内

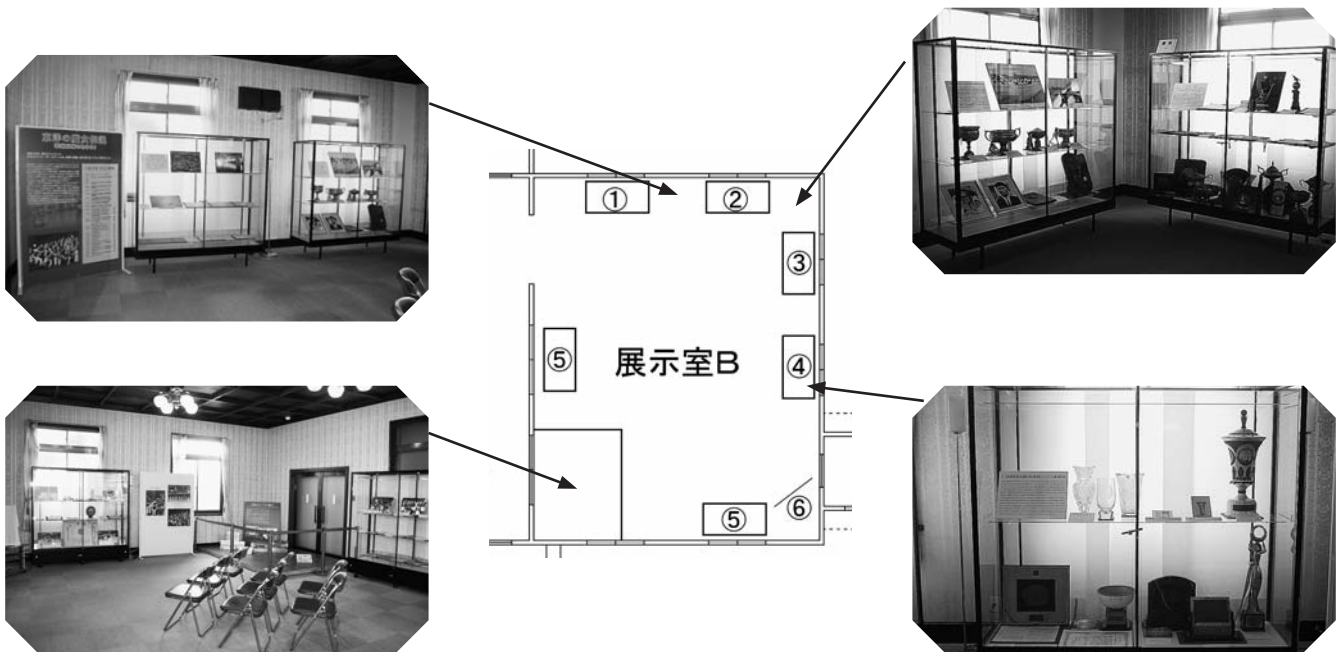
⑦貝塚御坊願泉寺の平成大修理

現在行われている重要文化財願泉寺（貝塚市中町所在）本堂他の半解体修理に関する紹介コーナーです。

展示室B「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」

- ①大日本紡績株式会社貝塚工場の新設
- ②日紡におけるバレーボールのさきがけと日紡貝塚の誕生
- ③日紡貝塚チームの躍進
- ④日紡貝塚の欧州遠征と第4回世界バレーボール選手権大会
- ⑤東京オリンピックでの金メダル獲得

「東洋の魔女」と呼ばれ、1964（昭和39）年の東京オリンピックで金メダルを獲得したニチボー貝塚女子バレーボールチームに関するさまざまな資料を紹介しています。今回のリニューアルに際しては、チーム結成後間もない時期のさまざまな国内大会での優勝カップ・優勝盾（たて）類、「東洋の魔女」ニチボー貝塚の名を世界に広めた1961（昭和36）年のヨーロッパ遠征と1962（昭和37）年の第4回世界バレーボール選手権大会の関係資料、1964年の東京オリンピックの関係資料、大松博文監督ほか選手たちの著書類など、多くの資料を追加展示しています。



⑥映像コーナー

映像コーナーでは、「東洋の魔女」ニチボー貝塚女子バレーボールチームの記録映像や、近年J-COMりんくう（Ch9）で放映された全日本女子代表バレーボールチームの映像を鑑賞していただくことができます。今回、ニチボー貝塚女子バレーボールチームの過酷な練習風景を記録した「挑戦」と、ニチボー株式会社のバレーボールチームおよびバスケットボールチームのドキュメンタリー「闘魂」の2本を追加しています。

貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）

住 所：大阪府貝塚市半田138-1

開館時間：午前10時～午後4時

休 館 日：毎火曜日、祝日、年末年始

入 館 料：無料

交通手段：JR阪和線「東貝塚」駅下車徒歩5分
南海本線「貝塚」駅からバス「ユニチカ前」下車徒歩2分



大日本紡績株式会社 貝塚工場の建築的特徴

旧大日本紡績株式会社貝塚工場は昭和8（1933）年5月に起工し、第1工場（織布工場）が昭和10年1月に、第2工場（紡績工場）が昭和11年4月に竣工しました。

敷地は南北327.272m、東西545.45mの規模です。正面の門を入ると前庭が広がり、中央正面に事務所（現在の貝塚市歴史展示館）が設けられていました。事務所の右手東側に工場が建ち、左手西側には社宅や寄宿舍が並んでいました。



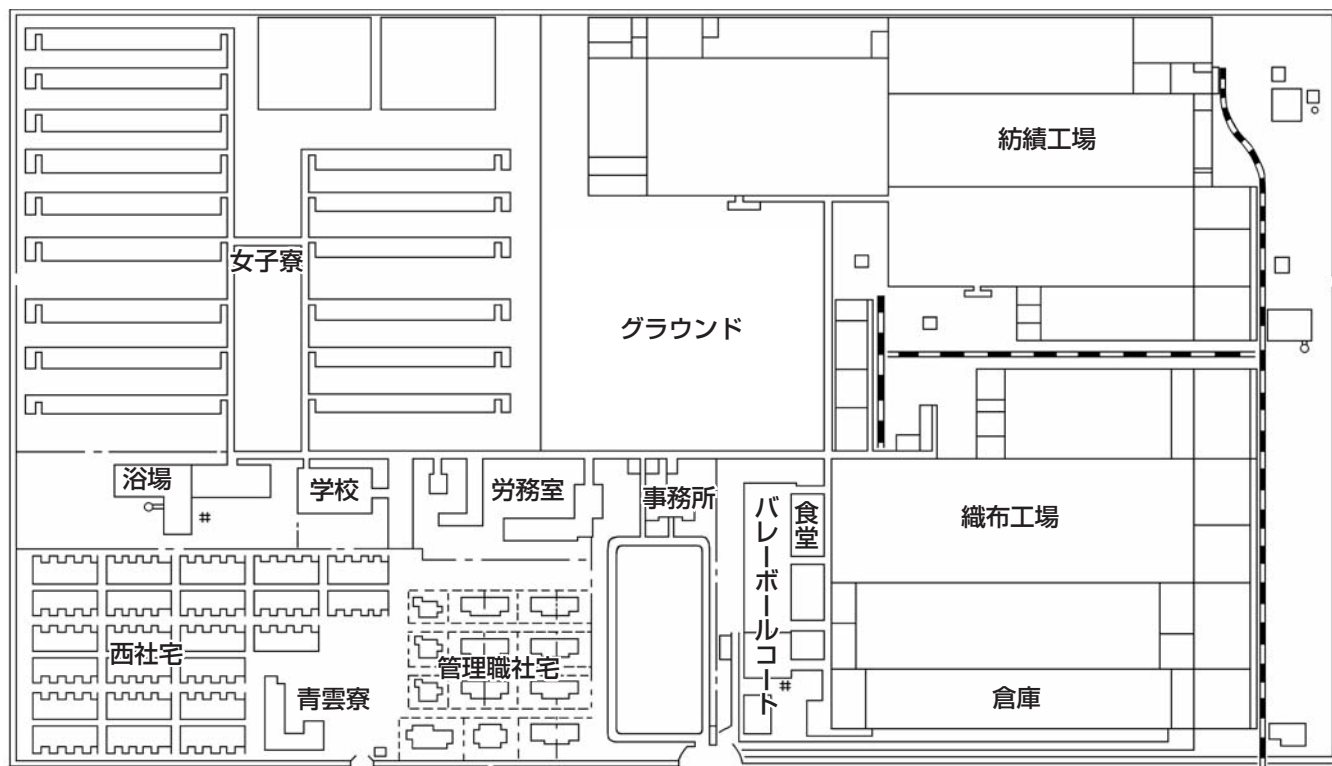
ユニチカ貝塚工場全景（昭和60年頃）

工場は軸部を鉄骨造とし、壁体部分など周囲を鉄筋コンクリート造で、屋根は鋸屋根スレート葺でした。そのほかに敷地内には診療所・労務室・面会室・学校・講堂・運動場などが設けられていました。また、事務所前庭の東側には食堂とニチボー貝塚バレーボールチームのためのバレーボールコートが建っていました。

これら貝塚工場の工場棟、寄宿舍、事務所等の配置は大日本紡績株式会社の他地域の

工場と同じような配置となっており、工場建設に際しては、パターン化されていたことがわかります。社宅は女子寮、男子寮、社宅が建っていました。女子寮や男子寮の部屋は10畳一間程の和室で、押入れ、床の間などが設（しつら）えていました。女子寮にはニチボー貝塚バレーボールチームの選手たちも暮らしていました。

結婚して世帯をもつと社宅へ引越しをしました。社宅は主任級までの社員が住む長屋住宅と係長、課長、工場長クラス別に分かれた管理職用社宅がありました。社宅の一面にはクラブと呼ばれる建



大日本紡績株式会社貝塚工場平面図（建築当初） ※本図は、ユニチカ記念館所蔵「自昭和十年六月 至十二年五月 雑書綴 第二號」所収の大日本紡績株式会社貝塚工場平面図（昭和10年5月当時）を下図にしています。

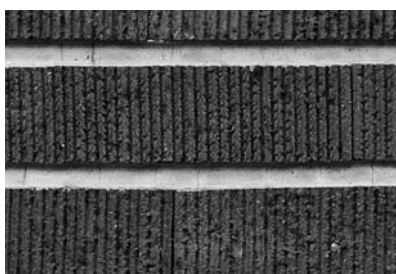
物があり、来客をもてなしたり、宴会などを開催したりする場所でした。

建物の設計をしたのは建築家橋本勉です。また、貝塚工場の各建物はスクラッチタイルや丸窓、換気口などデザイン的にも工夫されています。工場の建物は設置される機械に合わせて規模などが決められ、デザインではなく機能重視の面があり、ともすれば面白みのない建築群となりますが、橋本勉はこうした換気口や窓に円形のデザインを採用して、個性を持たせようとしたのだと考えられます。



貝塚工場社宅

ユニチカ株式会社(旧大日本紡績株式会社)建築の見所



スクラッチタイル

スクラッチタイルは表面に縦方向の櫛搔き溝が彫りこまれたタイルで、フランク・ロイド・ライトが建築設計した帝国ホテル(1923年竣工)で大谷石(おおやいし)とともに使用され、一躍注目されました。フランク・ロイド・ライトはアメリカの建築家で、近代建築の三大巨匠と呼ばれた人です。彼が使用したスタイルということでライト式とよばれる建築が流行し、昭和初期にはスクラッチタイルを外壁に使用する建物が多く建てられました。

丸窓

丸窓

展示室Bの東側倉庫の窓には周囲をこげ茶色の木製枠とし、中を同じくこげ茶色の木製の棧で十字に仕切った丸窓が採用されています。同様のデザインは管理職用の社宅や女子寮などにも採用されています。当時の民家にはない洒落た洋風のデザインであるとともに全体的に統一感を持たせています。



歴史展示館丸窓



社宅丸窓

社宅の換気口

管理職用社宅の妻側には円形の換気口が二口対となって開けられています。同形状の換気口は浴場などにも採用されており、全体的に建物に統一感を持たせていたものと考えられます。



腰板

展示室Aの内壁は、漆喰壁に縦棧(たてさん)で割り付けられた腰板が貼られています。腰板は近代建築に多く採用され、重厚さを演出するために会社事務所の応接室などに多用されています。北面の腰板縦棧は窓の額縁外側位置に合わせて割り付けられており、当初のデザインと考えられますが、南面と東面では腰板縦棧が戸口や窓額縁位置と関係なく割り付けられているため、一度改修された可能性があります。



古文書講座

◆「江戸時代の水争い—人びとの暮らしを通して—」

平成20年5月24日(土)から5回にわたり、「江戸時代の水争い—人びとの暮らしを通して—」と題して古文書講座を開催しました。

明和2(1765)年夏、北近義(きたこぎ)地域のかんがい用水の一つである件井(くだんゆ)の水をめぐる争いが起きました。件井とは江戸時代、畠中・加治・神前・脇浜の件番4か村が共同して維持管理しながら利用してきたかんがい用水であり、石才(いしざい)村がこの水を無断で田地へ引き入れたことが事件の発端となっています。農業中心の江戸時代において、水は人びとの暮らしの生命線でしたから、件番4か村は岸和田藩に訴え出て、藩の裁定を仰ぎました。しかし、水不足になりやすい石才村の構造的な問題もあり、両者が納得できるような結論がなかなか見いだせず、2年後の明和4年12月になってようやく決着しました。その内容は、件番4か村に水が十分に行き渡った後に、石才村が希望すれば水を分け与えるというものでした。件番としては件井の維持管理费用や、これまでの取り決めと異なるとして反対してきましたが、石才村が水不足を理由に不作になれば藩領内村々のしこりとなり、かつこれ以上もめごとが長期化するのを避けるため歩み寄った結果でした。争論の間、当事者双方はそれぞれの主張を藩の役人や了簡人(藩が当事者と利害関係のない村の庄屋を任命した仲裁役のこと)に対して訴え出ました。そうした動向について、件番4か村の当事者として争論の様子を記録した畠中村庄屋源太夫の日記や、藩へ提出した訴状をテキストに、争論発生から解決までを読み解きました。

参加者の方々からは、「生活に密着した内容であり、興味を持って受講できた」といった感想や、「人物と内容がややこしかった」とする指摘をいただきました。これらのご意見を踏まえ、今後いっそうの内容充実に努めてまいります。

◆次回(第28回)古文書講座開催のお知らせ

「古文書にみる雨ごい—水と人びとの結びつき—」

第27回の古文書講座に引き続き、水と人びとの結びつきをテーマに、次回は雨ごいを取り上げます。水不足が長期化した時、人びとはもはや「神頼み」以外に水を求める手立てがなく、雨ごいの神事を各地でとりおこないました。当時の雨ごいの様子やその行事の持つ意味などについて、遺された古文書をテキストに読み解いていきます。

日 時：平成20年10月18日—初心者講習、10月25日—第1回、11月8日—第2回
11月15日—第3回、11月22日—第4回、いずれも土曜日午後2時～4時30分
場 所：貝塚市民図書館2階視聴覚室
申 込：必要事項(住所、氏名、電話番号)を明記の上、はがき・Email・FAX・
電話いずれかの方法で、下記申込み連絡先まで事前にお願ひします。

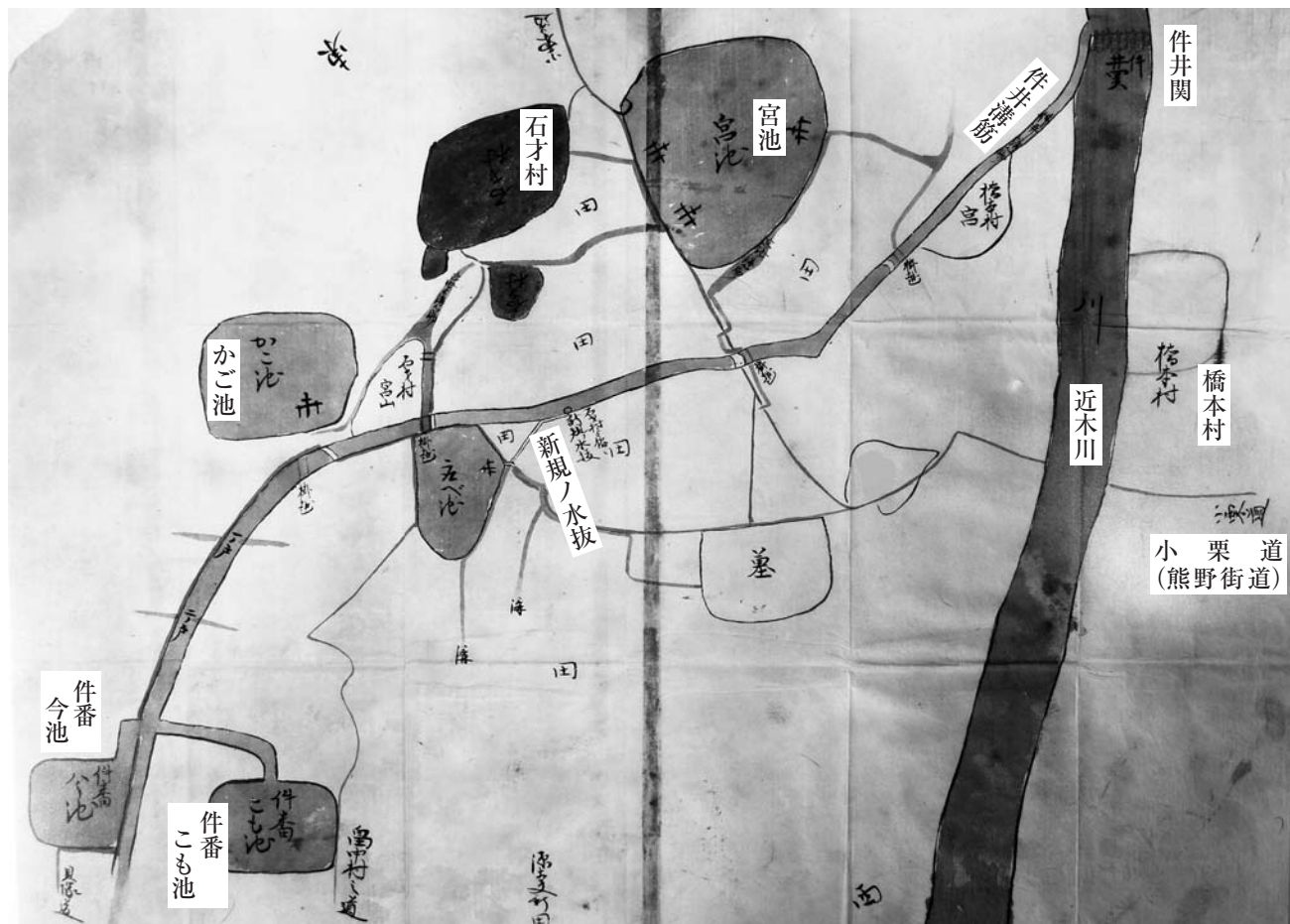
申込み連絡先

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1 貝塚市教育委員会 社会教育課
TEL 072 (433) 7126 / FAX 072 (433) 7107
Email shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp



古絵図をひも解く

◆近木川と件井（くだんゆ）



要家文書「件井争論絵図」

貝塚市内を流れる主要な河川として大阪寄りに津田川、中央に近木川、和歌山寄りに見出川がそれぞれ流れています。それぞれの川に沿って多くのため池があり、近年農業用水の需要の減少から埋め立てが進んでいる箇所も見られます。しかし、農業が生活の中心だった時代、ため池はかんがい用水として重要な位置にありました。

大川・秬谷（きびたに）・蕎原（そぶら）の山あいの水を集める近木川（こぎがわ）流域には、近木川から分水した水をためる池がたくさん作られています。中でも大規模なため池に永寿池（えいじゅいけ）があります。永寿池は奈良時代の僧行基（ぎょうき）が建設した伝承を持つ池で、水間寺に隣接する井関（いぜき）から取水し、近木川中下流域のかんがい用水として、田畑に豊かな水を供給しています。

左記の古文書講座で取り上げた件井は、この永寿池の水を利用しています。上に示した絵図には、右端を上から下に近木川が流れ、その上流右上隅にある「件井関」から件井が枝分かれし、左下隅の「件番今池」・「件番こも池」に流れ込む様子が描かれています。これら件井の水が件番4か村の畠中・加治・神前・脇浜の田畑に引き入れられています。石才村を中心に描かれたこの絵図は、件番4か村が明和2（1765）年の争論の際に作成したもので、中央部分に石才村が自分たちの田地へ水を引き入れるために作った「新規ノ水抜」が見られます。現在は埋め立てられて存在しない「かご池」も描かれています。

梅雨から夏へ移りゆくこの季節、にぎやかな蛙の合唱があちこちの田んぼから聞こえてきます。そうしたのどかな農村の夏の情景は、いにしえと現在をつないでいます。

貝塚御坊願泉寺の平成大修理

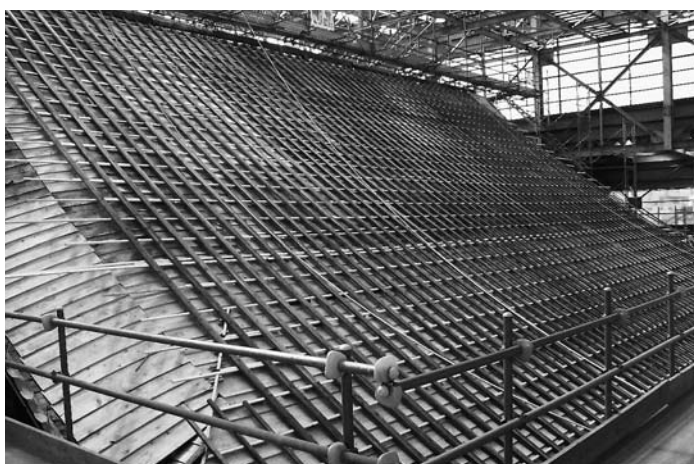
平成17年9月から10月にかけて本堂の屋根瓦の解体が行われてから約2年半、本堂の修復工事も大詰めをむかえ、今年4月より本堂の屋根瓦を葺く作業が始まりました。

今回の修復工事では、本堂の屋根に瓦を葺く方法として「空葺（からぶ）き工法」が採用されました。

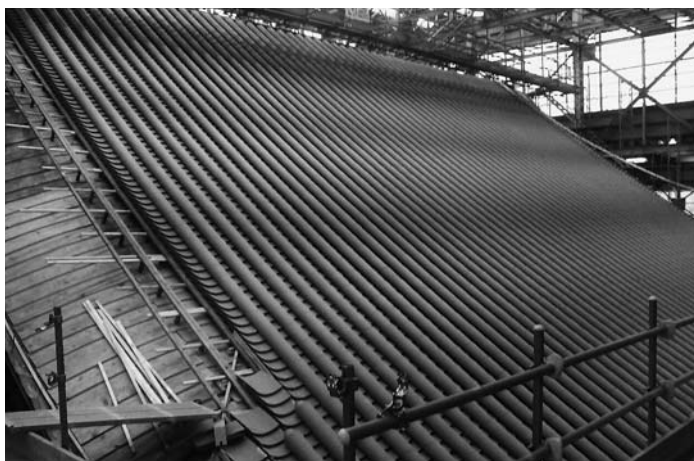
空葺き工法は、野地板（のじいた）に栈木（さんぎ）を格子状に取り付け、栈木に平瓦をビス釘や銅線で固定します。そのため、新瓦には銅線を通すための穴が空いています。

それまでの本堂の屋根は、野地板に土を置き、その上に瓦を接着するように載せる「土葺（つちぶ）き工法」でした。これでは屋根への荷重が大きくなるため、少しでも負担を減らすことを目的に空葺き工法としました。

この空葺き工法により建物全体の約半分を占めていた屋根の荷重が約1割軽くなる計算となり、耐震性が高まることになります。屋根を軽くすることは、建物への負担を軽減するとともに地震から文化財を守ることもなります。



新瓦を葺く直前の本堂背面（空葺き工法）



新瓦を葺いた本堂

見学会開催日

毎月第3日曜日に定期見学会を開催しています。当日は本堂の修復状況を見学することができますので、興味や関心のある方はぜひご参加ください。なお、本堂の素屋根（工事用覆屋）解体のため、平成20年11月～平成21年4月まで見学会はありません。

開催日：平成20年8月17日(日)、9月21日(日)、10月19日(日)

時 間：午前10時～午後4時（時間内の見学は自由）

※見学会当日は午前10時30分と午後1時30分からの2回、担当者による説明が行われます。

編集後記

今回、貝塚市歴史展示館リニューアルオープンに際し、「東洋の魔女」の時のトロフィーや2008年の全日本女子代表バレーボールチームのサインボールなど展示品を大幅に増やしております。

今年は北京オリンピックが開催されます。東京オリンピックの「東洋の魔女」のように女子バレーボールチームの活躍を期待したいと思います。

※今回、歴史展示館リニューアルオープンに際しまして、ユニチカ株式会社、財団法人日本バレーボール協会のご協力を得ております。記して感謝の意を表します。

かいづか文化財だよりテンプス34号



平成20年7月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷 (株)和歌山印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：67.20円